淀川区教育行政連絡会「小学校の部」議事要旨

日 時 平成 27 年 11 月 17 日 (火) 10:00～11:45

場 所 淀川区役所 6 階 601 会議室

出席者 学校長：新東三国 東三国 北中島 宮原 西三国 三国 新高 西中島
木川 木川南 十三 野中 神津 塚本 田川 加島
(欠席：三津屋)

区役所：淀川区長 教育支援担当係長 係員

傍 聴：0 人

会議資料

資料① 平成 28 年度の事業の予定について

資料②－1 睡眠習慣改善の取組 アンケート集計結果

資料②－2 淀川区内 6 中学 アンケート結果

資料②－3 淀川区子ども教育会議 議事要旨

資料②－4 子どもの睡眠習慣改善に向けた独自の取組について

資料③ 保護者あてメールの使用状況 アンケート集計結果

【次第】

司会：教育支援担当係長

◎区長あいさつ

◎議題

《1 平成 28 年度事業の予定について》【非公開】

《2 睡眠習慣改善の取組について》【公開】

《3 学校メールの活用について》【公開】

《4 その他》【公開】

・説明：区長、教育支援担当

・各議題について意見交換

【意見交換要旨】

議題1 児童・生徒の生活習慣の改善にかかる取組について

(区より説明)

今年度からスタートした分権型教育行政の流れにより、区の教育担当において、教育委員会事業の企画を検討している。その企画内容については、区内の校長先生方からお聞きした要望に応えた内容を検討中である。平成27年度から既に教育委員会事業として実施しているヨドジユクに加え、子どもの睡眠習慣の改善に向けた取組や、不登校の子どもの対応にかかる教員へのサポートとしてスクールソーシャルワーカー等専門家を活用した取組、及び、体力づくり支援や英語力向上の取組を実施したく思っている。

(意見交換)

- 不登校児童の子どもの対応にかかる教員サポートはありがたい。
- スクールソーシャルワーカーについて、区に1人おいていただけるとありがたい。
- 現行の教委にもスクールソーシャルワーカー派遣制度があるが、使えていない現状。
- 本校では制度を活用したが、とても助かっている。

(区) ⇒淀川区の学校では、スクールソーシャルワーカーの派遣申請件数が少ない。現場の先生方の認識不足という課題があるのかと考えられるため、まず、平成28年度については、専門家の学校現場での活動についての理解を進めることをめざしたい。校長先生方の要望に応じて検討したことでもあり、現場の先生がたのご参加についてご理解いただきたい。

議題2 睡眠習慣改善の取組について

(区から説明)

各校で進めていただいている睡眠習慣の取組について、モニタリングを区で実施。アンケートにまとめた。区でとりまとめる以前から相当やっている、という学校もあり、効果が出ているところもある。また、子ども教育会議を新設し開催した。まず、子ども教育会議の設置の意義に関して、分権型教育行政について議論。校長への権限移譲、区単位での取組実施の可能性、及び区長の関与は抑制的であるということについて議論した。保護者を巻き込んでいきたいと思っている。睡眠改善取組のテーマに関しては、子ども自身の気づきが重要であるという意見もあった。子どもが日常的に親しむネットやスマホについて、敵視せず、それを学習に生かすなどのアプローチがあってもよいと思う。オンライン学習なども民間事業者が開発・活用を図っており、特に不登校の子の学力保障に効果があるのではないかと思う。

(担当より、来年度事業スケジュールの予定について現状の検討状況を踏まえ説明)

子ども睡眠の改善支援について、各学校の自律的な取組を、区がバックアップできるような形で考えている。また、実施にあたっては、学校の協力をお願いする部分もあるが、バックアップについて要望をうけてきた経過もあり、ご理解をお願いしたい。

議題3 学校メールの活用について

(区から説明)

学校協議会の研修をする中で、どの委員からも出たのが、学校協議会の存在があまり知られていないということが問題であるとの声だった。そこで、告知ツールの重要性が問われる。

連絡帳による日々の連絡も重要であるが、保護者メールというツールの可能性について議論したい。

(意見交換)

○保護者メールは、台風やインフルエンザなど、緊急性の高い情報の連絡に用いている。宿題や日常の連絡は、双方向のツールである連絡帳を活用している。

○保護者メールは登録を強制できないため全員に伝えることができないというのがネックである。

(区) ⇒保護者の関心を高める、ということについては、引き続き、HPの活用も図りながら努めていただきたい。

議題4 その他

(区より説明)

学力調査結果が出たが、この調査の対策について、現場のお考えを聞きたい。教育委員会としては、対策に必要な教材は学校への教材データ配信システムに含まれており、それを活用して対策を行うのは各校の判断に任せているとのことだった。ただ、あえてテスト対策などをせず、子どものそのままの力を測るための調査だ、という考え方もあると思う。体力調査にも同じことが言えるが、こういった調査についての考え方を教示されたい。

○対策のための教材がデータ配信されていることはもちろん把握している。

○(対策を実施している学校) わが校では、校長自ら中心となって、過去問を使って対策を行っている。学力調査で用いられる問題は、普通の子はやったことのないタイプのもの。対策をせずに良い成績は取れるわけがない。対策すると、やはり目に見えて成績が上がった。そうすると、子どもも教員も自信を持つ。

○(対策を実施していない学校) わが校では、この調査は、子どもの素の力を図り、今後の授業に役立てるために行うものとの考えから、対策は行っていない。しかし、普段の授業を大切にしている成果は、わが校での学力調査結果にも表れている。

○学力調査よりも体力調査のほうが顕著な例で、体力の場合、練習をしないと、一度もやったことのない種目を練習もなしにいきなりやらせることになる。それで低成績だと子どもがかawaiiそうなので、わが校でも、とくに体力についてはやり方を検討するべきかと思っている。

(区) ⇒各校のお考えに基づいて授業を組み立てておられる状況は分かった。